

資料編

市民のスポーツ活動に関する
アンケート調査結果

< 概要版 >

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、平成 24 年 3 月に国のスポーツ基本計画が策定されたことを踏まえ、鎌倉市スポーツ振興基本計画の見直しをすすめるため、市民のスポーツに関する考え方やスポーツ活動の実態を調べ、取り組むべき課題を把握することを目的とする。

2 調査の設計及び回収結果

本調査の実施方法は以下のとおりである。

① 調査地域	鎌倉市内全域
② 調査対象	18 歳以上の鎌倉市民（住民基本台帳から無作為抽出）
③ 標本数	2,000 人
④ 有効回収数	707 人
⑤ 調査方法	郵送法
⑥ 調査期間	平成 25 年 5 月 10 日～5 月 25 日
⑦ 調査実施機関	一般社団法人輿論科学協会

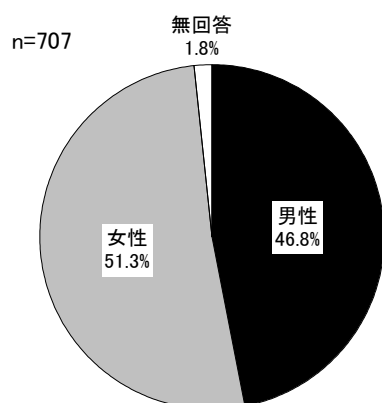
3 調査結果をみる上での注意事項

- ① 回答は n（設問に対する回答者数）を基準とした百分率で表わし、小数点第 2 位を四捨五入した。このため、百分率の合計が 100%にならない場合がある。
- ② 本文中及びグラフ・数表では、選択肢表記を短縮して記載している場合がある。

II 回答者の属性

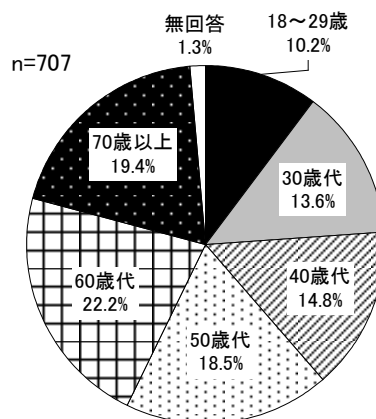
(1) 性別

【図 1 性別】



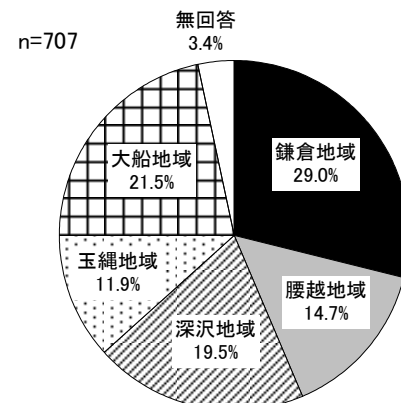
(2) 年齢

【図 2 年齢】



(3) 居住地域

【図 3 居住地域】



Ⅲ 調査結果

1 スポーツの活動状況について

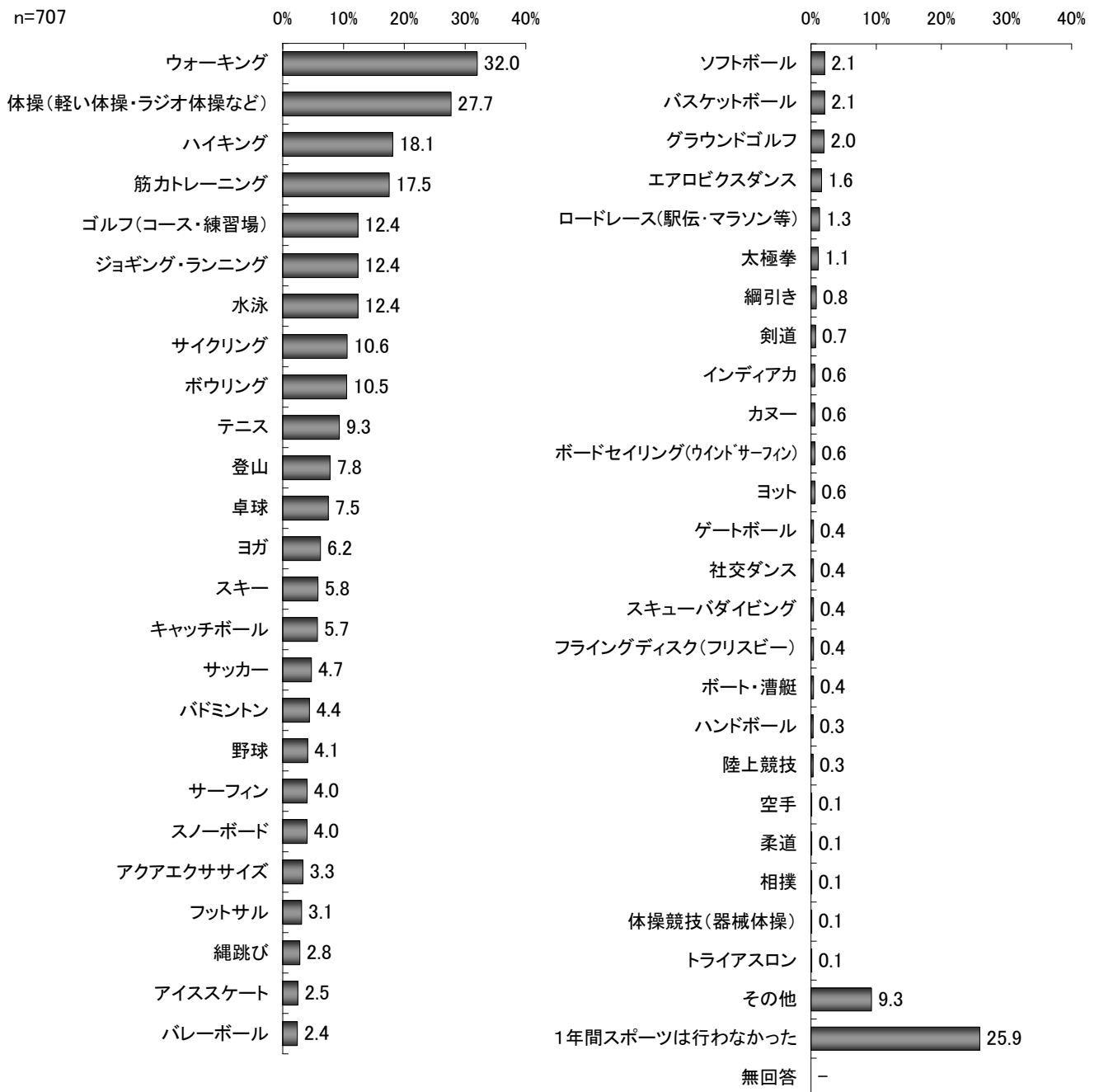
(1) 過去1年間に行った運動・スポーツ

過去1年間に行った運動・スポーツ*については、「ウォーキング」(32.0%)が3割を超え最も高く、次いで「体操(軽い体操・ラジオ体操など)」(27.7%)となっている。以下、「ハイキング」(18.1%)、「筋力トレーニング」(17.5%)、「ゴルフ(コース・練習場)」「ジョギング・ランニング」「水泳」(それぞれ12.4%)と続いている。

なお、「1年間スポーツは行わなかった」と回答した人は25.9%で、およそ4人に3人が何らかの運動・スポーツを行ったということになる。

※過去1年間に行った運動・スポーツ：学校の授業は除くが、学校や職場でのクラブ活動は含む

【図4 過去1年間に行った運動・スポーツ】

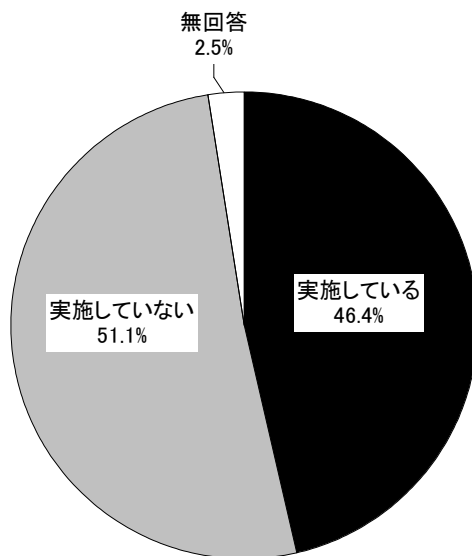


(2) スポーツ実施率

1回 30 分以上の運動・スポーツを週 1 日以上実施している人の割合をスポーツ実施率と捉えると、「実施している」が 46.4%、「実施していない」が 51.1%となっている。

[図 5 スポーツ実施率(1回 30 分以上の運動・スポーツを週 1 日以上実施している人の割合)]

n=707



性別で見ると、男性全体と女性全体の実施率に差はみられなかったが、男性では 18～29 歳・30 歳代が高く、女性では 50～60 歳代が高い。一方、実施率が最も低い年代は、男性では 40 歳代 (36.5%)、女性では 18～29 歳 (29.8%) となっている。

地域別では、深沢地域が 53.6%と最も高くなっている。

[表 1 スポーツ実施率(性別、性・年代別、地域別)]

		n (回答者数)	実施している (%)	実施していない (%)	無回答 (%)	
全体		707	46.4	51.1	2.5	
性別	男性	331	46.5	51.7	1.8	
	女性	363	46.8	51.0	2.2	
性別 × 年代	男性	18～29歳	25	64.0	32.0	4.0
		30～39歳	40	50.0	50.0	-
		40～49歳	52	36.5	63.5	-
		50～59歳	66	42.4	57.6	-
		60～69歳	73	49.3	50.7	-
		70歳以上	75	46.7	46.7	6.7
	女性	18～29歳	47	29.8	70.2	-
		30～39歳	56	37.5	60.7	1.8
		40～49歳	52	44.2	53.8	1.9
		50～59歳	65	58.5	40.0	1.5
		60～69歳	84	60.7	39.3	-
		70歳以上	59	39.0	52.5	8.5
地域	鎌倉地域	205	44.9	52.2	2.9	
	腰越地域	104	41.3	56.7	1.9	
	深沢地域	138	53.6	44.9	1.4	
	玉縄地域	84	50.0	48.8	1.2	
	大船地域	152	45.4	51.3	3.3	

(3) スポーツの実施回数、実施時間

過去1年間に運動・スポーツを行った人について、週あたりの実施回数^{*}は、平均で3.52回となっている。回答数の多い上位11種目について平均の実施回数を見ると、「体操（軽い体操・ラジオ体操など）」が最も多く、次いで「ウォーキング」「筋力トレーニング」などとなっている。

^{*}複数の種目を行っている場合は、種目毎の回数を加算して算出した。後述の実施時間についても同様。

【表2 運動・スポーツの実施回数/週あたり(全体)】

	回答数	平均値	最大値	最小値	(回)
全 体	505	3.52	19.00	0.02	

【表3 運動・スポーツの実施回数/週あたり(上位11種目)】

	回答数	平均値	最大値	最小値	(回)
ウォーキング	178	2.53	7.00	0.02	
体操（軽い体操・ラジオ体操など）	143	3.15	7.00	0.02	
筋力トレーニング	81	2.41	7.02	0.02	
ハイキング	76	0.33	3.00	0.02	
ゴルフ（コース・練習場）	71	0.54	6.92	0.02	
水泳	61	0.77	3.00	0.04	
ジョギング・ランニング	60	1.81	7.00	0.02	
テニス	54	1.10	4.00	0.02	
サイクリング	50	1.29	6.00	0.04	
ボウリング	35	0.23	3.00	0.02	
ヨガ	33	1.73	7.00	0.06	

運動・スポーツの実施時間は、週あたりの平均で約247分、すなわち約4時間程度となっている。回答数の多い上位11種目について平均の実施時間をみると、「ウォーキング」が最も長く、次いで「サイクリング」「テニス」「ゴルフ（コース・練習場）」などとなっている。

【表4 運動・スポーツの実施時間/週あたり(全体)】

	回答数	平均値	最大値	最小値	(分)
全 体	500	246.83	2810.77	0.29	

【表5 運動・スポーツの実施時間/週あたり(上位11種目)】

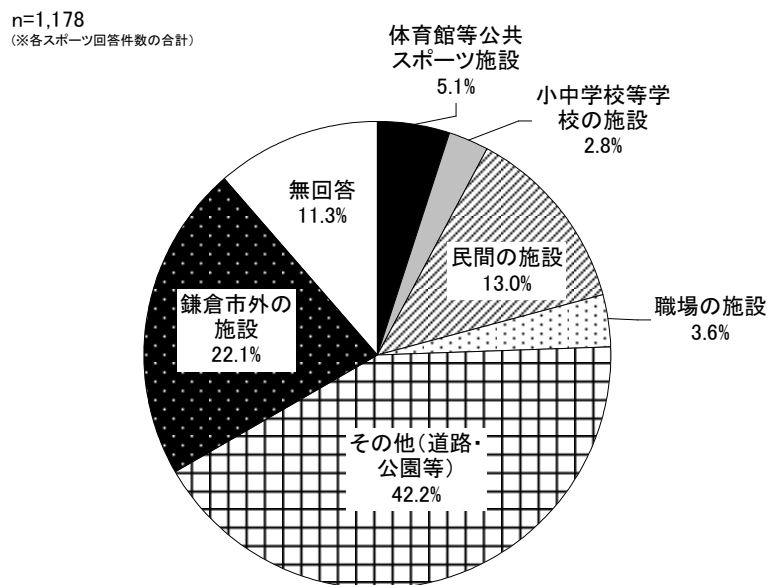
	回答数	平均値	最大値	最小値	(分)
ウォーキング	178	171.88	1500.00	1.15	
体操（軽い体操・ラジオ体操など）	143	59.93	420.00	0.58	
筋力トレーニング	81	81.66	415.38	1.15	
ハイキング	76	57.77	480.00	2.31	
ゴルフ（コース・練習場）	71	134.97	2076.92	1.54	
水泳	61	60.69	300.00	3.08	
ジョギング・ランニング	60	88.24	600.00	1.15	
テニス	54	135.46	800.00	2.31	
サイクリング	50	141.50	2400.00	2.31	
ボウリング	35	24.20	360.00	1.15	
ヨガ	33	100.99	415.38	2.31	

(4) スポーツを行う際に利用している施設

利用している施設について、全体では「その他（道路・公園等）」（42.2%）が4割を超え最も高くなっている。「その他（道路・公園等）」と「民間の施設」（13.0%）、「体育館等公共スポーツ施設」（5.1%）、「職場の施設」（3.6%）、「小中学校等学校の施設」（2.8%）を合わせた『鎌倉市内の施設（計）』は66.7%で、7割近くが市内の施設で運動・スポーツを行っていることになる。

一方、「鎌倉市外の施設」（22.1%）は、ほぼ2割となっている。

【図6 利用している施設】



回答数の多い上位11種目についてみると、大半の種目で鎌倉市内の割合が高くなっているものの、「ゴルフ（コース・練習場）」「水泳」「ボウリング」「テニス」「ハイキング」では比較的市外の施設利用が多くなっている。

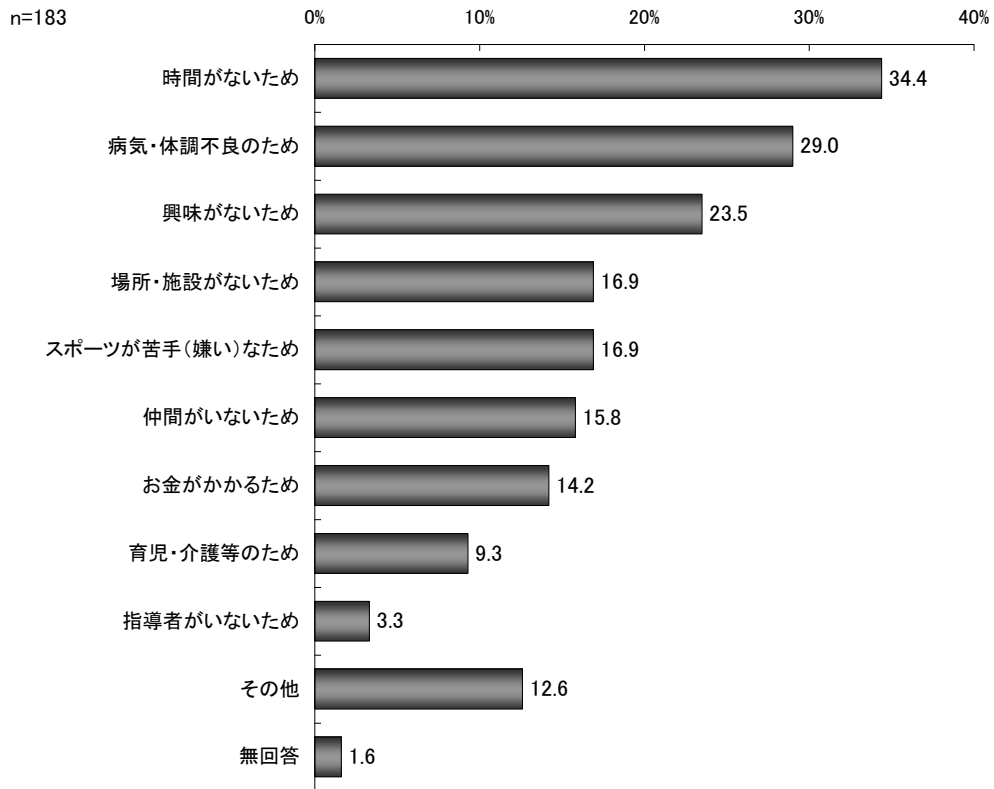
【表6 利用している施設(上位11種目)】

	回答数	鎌倉市内の施設(計)						鎌倉市外の施設	無回答
		体育館等公共スポーツ施設	小中学校等学校の施設	民間の施設	職場の施設	その他(道路・公園等)			
ウォーキング	178	88.8	-	-	1.1	0.6	87.1	5.1	6.2
体操(軽い体操・ラジオ体操など)	143	84.6	0.7	0.7	7.7	13.3	62.2	3.5	11.9
筋力トレーニング	81	71.6	12.3	1.2	13.6	6.2	38.3	16.0	12.3
ハイキング	76	69.7	-	-	-	-	69.7	25.0	5.3
ゴルフ(コース・練習場)	71	38.0	1.4	-	36.6	-	-	46.5	15.5
水泳	61	45.8	24.6	1.6	18.0	1.6	-	34.4	19.7
ジョギング・ランニング	60	81.7	-	1.7	5.0	3.3	71.7	5.0	13.3
テニス	54	57.5	9.3	1.9	37.0	5.6	3.7	25.9	16.7
サイクリング	50	84.0	-	-	-	-	84.0	10.0	6.0
ボウリング	35	54.3	2.9	-	51.4	-	0.0	34.3	11.4
ヨガ	33	81.8	12.1	-	45.5	-	24.2	12.1	6.1
(全種目計)	1,178	66.7	5.1	2.8	13.0	3.6	42.2	22.1	11.3

(5) スポーツを行わない理由

「1年間スポーツは行わなかった」と回答した人にその理由を聞いたところ、「時間がないため」(34.4%)が3割を超え最も高くなっている。次いで、「病気・体調不良のため」(29.0%)、「興味がないため」(23.5%)の順が続いている。

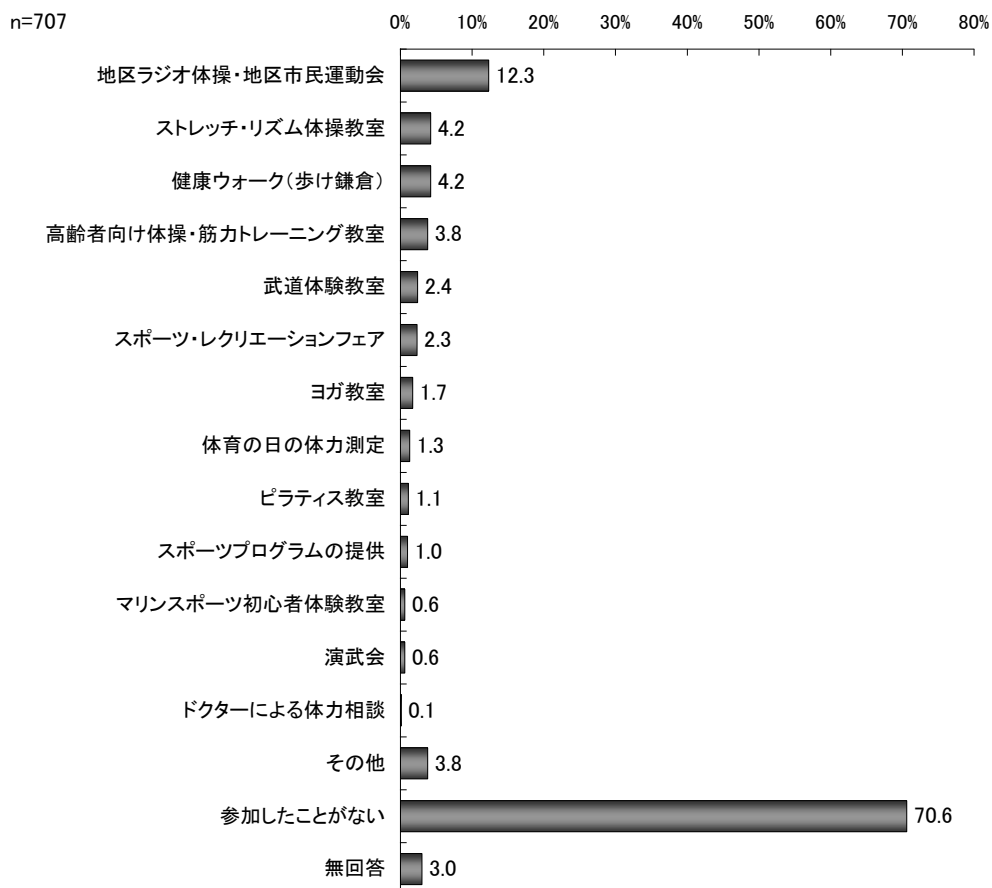
【図7 スポーツを行わない理由】



(6) スポーツ教室やイベントなどへの参加状況

市などが主催するスポーツ教室やイベントなどに参加したことがあるか聞いたところ、「参加したことがない」(70.6%)が7割を超えている。参加したことがあるものでは、「地区ラジオ体操・地区市民運動会」(12.3%)が最も高くなっている。

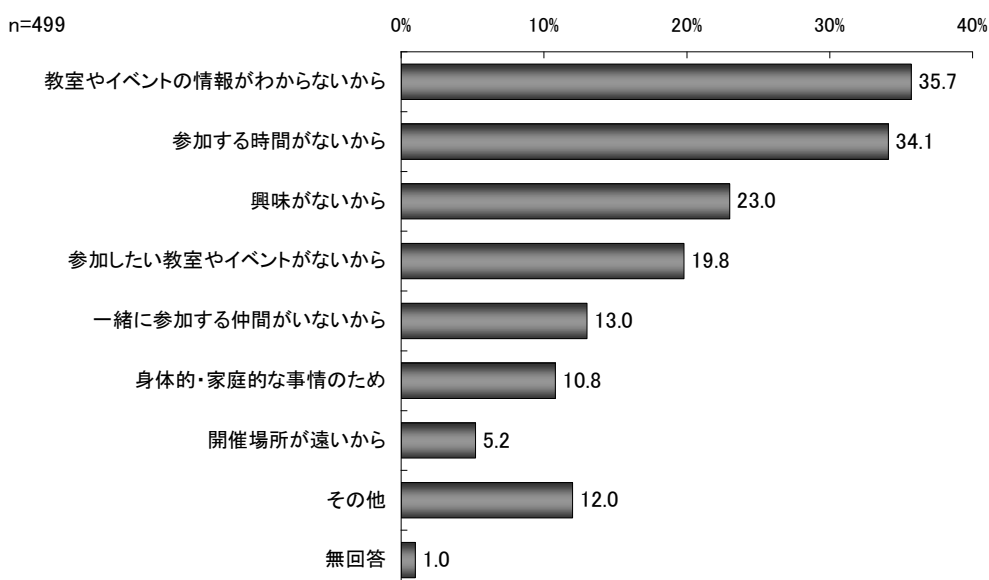
【図8 スポーツ教室やイベントなどへの参加状況】



(7) スポーツ教室やイベントなどへ参加しない理由

スポーツ教室やイベントなどへ参加しない理由を聞いたところ、「教室やイベントの情報がわからないから」(35.7%)、「参加する時間がないから」(34.1%)が3割半ばで高くなっている。

【図9 スポーツ教室やイベントなどへ参加しない理由】

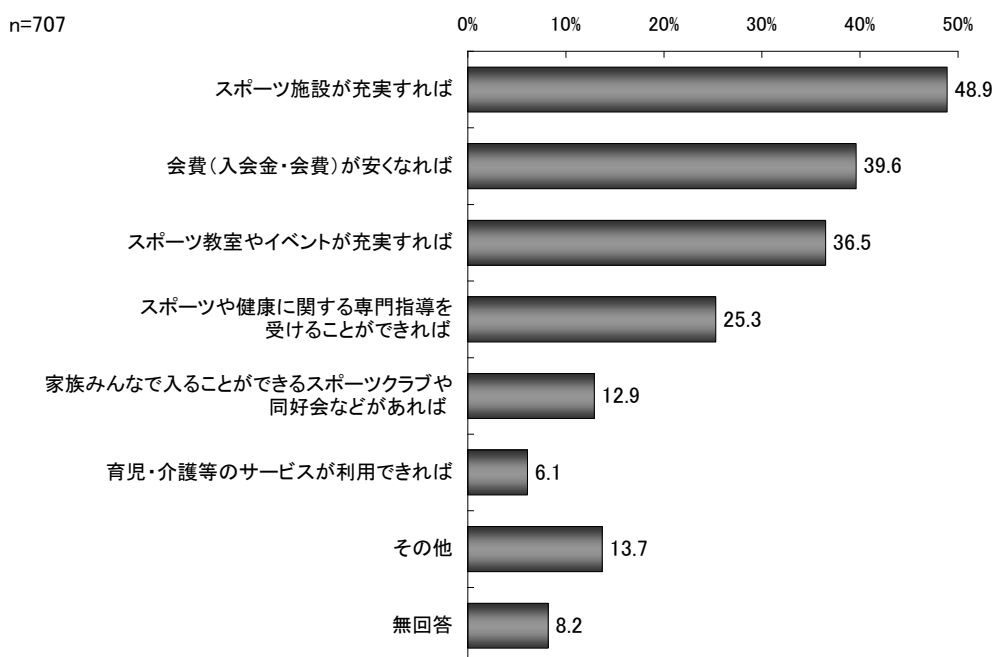


2 スポーツのニーズ(必要性)、施設の整備、重視すべき施策等

(1) スポーツに対するこれからのニーズ(必要性)について

どのような条件が整えばより一層スポーツを行うようになると思うか聞いたところ、「スポーツ施設が充実すれば」(48.9%)が5割近くで最も高くなっている。次いで、「会費(入会金・会費)が安くなれば」(39.6%)、「スポーツ教室やイベントが充実すれば」(36.5%)の順で続いている。

[図10 スポーツに対するこれからのニーズ(必要性)]



性別でみると、「スポーツ施設が充実すれば」は男性で、「会費(入会金・会費)が安くなれば」は女性で高くなっている。

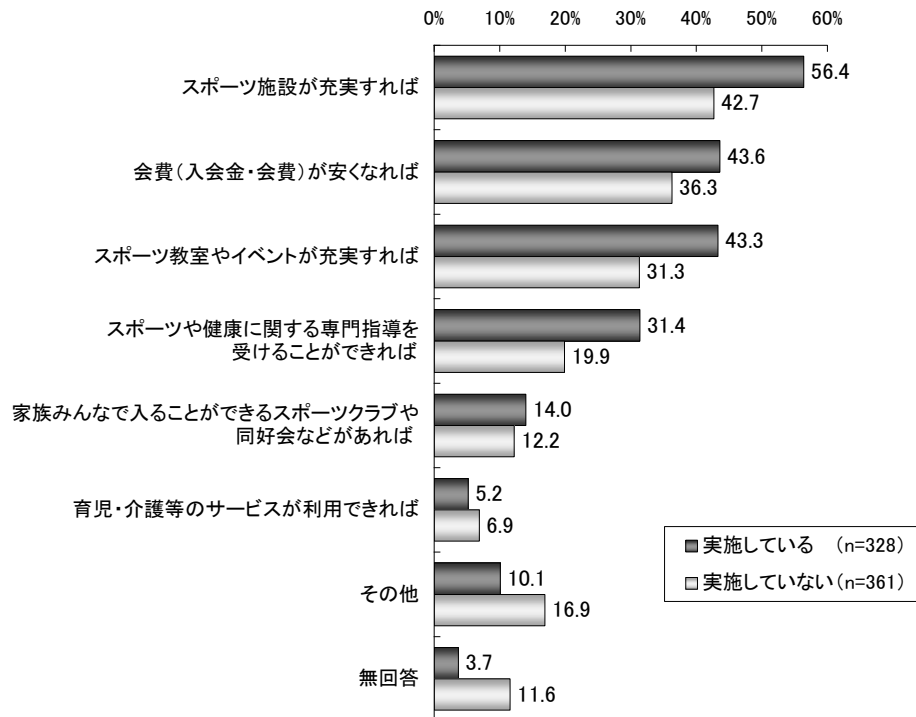
性・年代別でみると、「スポーツ施設が充実すれば」は男性の18~29歳・30歳代・40歳代で7~8割台、女性の18~29歳で7割近くと高くなっている。「会費(入会金・会費)が安くなれば」は女性の18~29歳・30歳代・40歳代が高く、「スポーツ教室やイベントが充実すれば」は女性40歳代で高くなっている。

[表7 スポーツに対するこれからのニーズ(必要性)(性別、性・年代別)]

		n (回答者数)	充 実 す れ ば 施 設 が	れ 会 費 (入 会 金 ・ 会 費 が 安 く な れ ば	す イ ス れ べ ト ツ が 教 室 充 実 や	が 導 に ス ポ ー ツ に 関 する 専 門 指 導 を 受 け る こ と が で き る と	あ れ 同 好 会 な ど が あ ら ば	や ス ポ ー ツ に 関 する 専 門 指 導 を 受 け る こ と が で き る と	家 族 み ん で 入 る こ と が で き る ス ポ ー ツ ク ラ ブ や 同 好 会 な ど が あ ら ば	で サ ク リ ー ン ス タ ン ド が あ ら ば	そ の 他	無 回 答	
		(%)											
全体		707	48.9	39.6	36.5	25.3	12.9	6.1	13.7	8.2			
性別	男性	331	55.3	33.2	35.0	23.9	14.5	4.5	14.2	7.6			
	女性	363	43.8	45.7	38.3	27.3	11.8	7.2	13.2	8.0			
性別 × 年代	男性	18~29歳	25	84.0	40.0	28.0	16.0	12.0	-	4.0	8.0		
		30~39歳	40	75.0	37.5	45.0	10.0	15.0	10.0	12.5	2.5		
		40~49歳	52	71.2	32.7	40.4	23.1	15.4	1.9	17.3	1.9		
		50~59歳	66	62.1	39.4	31.8	25.8	16.7	3.0	12.1	1.5		
		60~69歳	73	39.7	34.2	32.9	32.9	15.1	8.2	12.3	9.6		
		70歳以上	75	33.3	22.7	33.3	24.0	12.0	2.7	20.0	17.3		
	女性	18~29歳	47	68.1	59.6	38.3	10.6	14.9	4.3	8.5	-		
		30~39歳	56	44.6	64.3	44.6	16.1	21.4	19.6	14.3	-		
		40~49歳	52	42.3	59.6	59.6	13.5	13.5	7.7	9.6	3.8		
		50~59歳	65	52.3	36.9	46.2	46.2	12.3	4.6	6.2	6.2		
		60~69歳	84	39.3	48.8	32.1	41.7	7.1	4.8	15.5	6.0		
		70歳以上	59	22.0	10.2	13.6	22.0	5.1	3.4	23.7	30.5		

スポーツ実施有無別でみると、「スポーツ施設が充実すれば」が実施の有無にかかわらず最も高くなっているが、実施している人の 56.4%に対し、実施していない人では 42.7%と差がみられる。

【図 11 スポーツに対するこれからのニーズ(必要性) (スポーツ実施有無別)】



スポーツ実施有無別について、性別でクロス集計したものが下表である。「スポーツ施設が充実すれば」について、実施している人の男性ではほぼ6割、女性ではほぼ5割、実施していない人の男性でもほぼ5割と過半数以上となっている一方、実施していない人の女性では3割半ばと低くなっている。

【表 8 スポーツに対するこれからのニーズ(必要性) (スポーツ実施有無別×性別)】

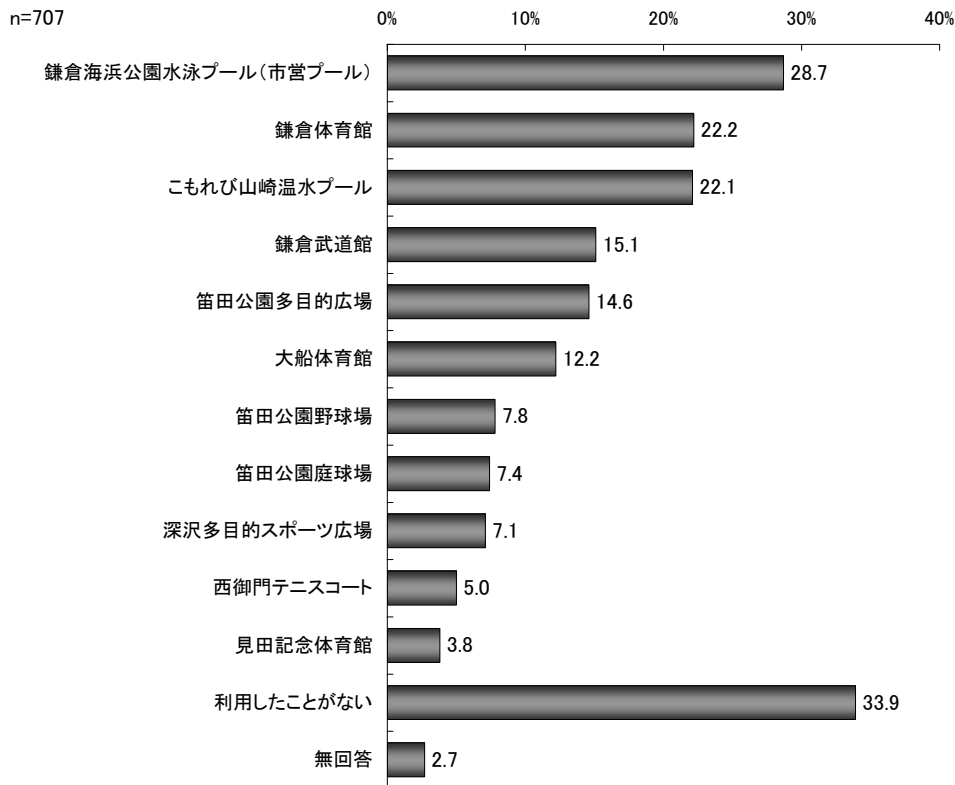
		n (回答者数)	スポーツ施設が充実すれば	会費(入会金・会費)が安くなれば	スポーツ教室やイベントが充実すれば	スポーツや健康に関する専門指導を受けられることができれば	家族みんなで入ることができるスポーツクラブや同好会があれば	育児・介護等のサービスが利用できれば	その他	無回答
全体		707	48.9	39.6	36.5	25.3	12.9	6.1	13.7	8.2
スポーツ実施している		328	56.4	43.6	43.3	31.4	14.0	5.2	10.1	3.7
性別	男性	154	61.0	36.4	39.0	27.3	16.2	4.5	12.3	3.2
	女性	170	52.9	49.4	47.1	35.3	12.4	5.9	7.6	4.1
スポーツ実施していない		361	42.7	36.3	31.3	19.9	12.2	6.9	16.9	11.6
性別	男性	171	50.9	31.0	32.7	20.5	13.5	4.7	15.8	10.5
	女性	185	35.7	42.2	30.3	20.0	11.4	8.6	17.8	11.9

(2) 利用したことがあるスポーツ施設

これまでに利用したことがある施設について聞いたところ、「鎌倉海浜公園水泳プール（市営プール）」（28.7%）が3割近くで最も高くなっている。次いで、「鎌倉体育館」（22.2%）、「こもれび山崎温水プール」（22.1%）の順で続いている。

なお、3割以上の方が「利用したことがない」と回答しており、その理由として“機会がない”“時間がない”“興味がない”“家から遠い”などがあげられている。

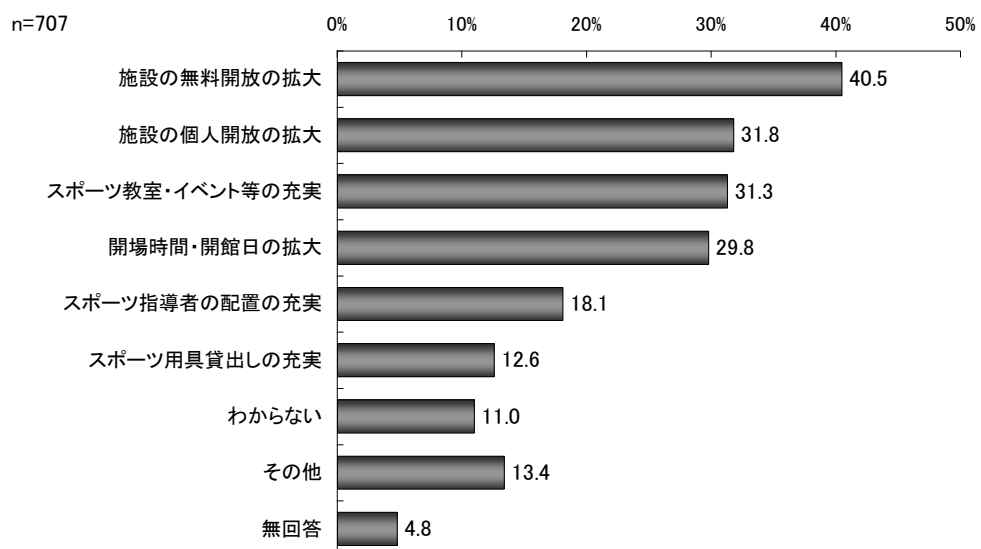
【図 12 利用したことがあるスポーツ施設】



(3) スポーツ施設をより一層利用するようになるための条件

どのような条件が整えばより一層スポーツ施設を利用するようになると思うか聞いたところ、「施設の無料開放の拡大」（40.5%）がほぼ4割で最も高くなっている。

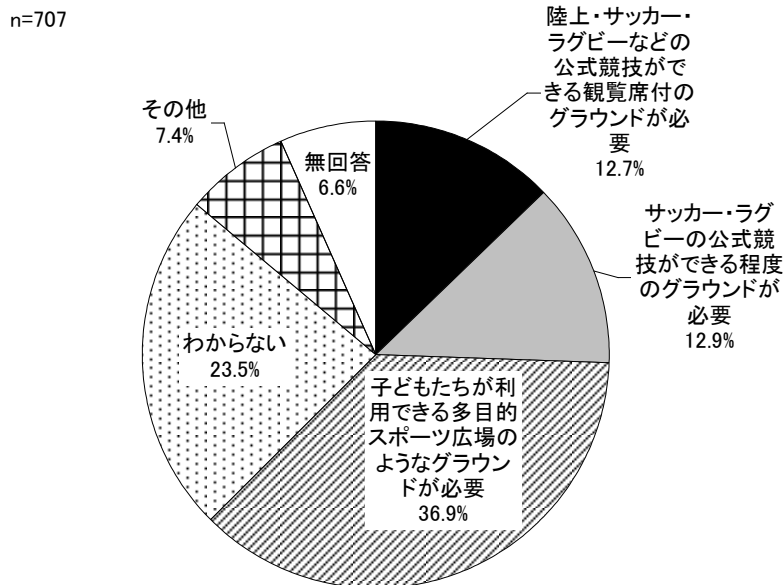
【図 13 スポーツ施設をより一層利用するようになるための条件】



(4) グラウンドの整備について

グラウンドの整備の考え方については、「子どもたちが利用できる多目的スポーツ広場のよう
なグラウンドが必要である」(36.9%)が3割半ばで最も高くなっている。「サッカー・ラ
グビーの公式競技ができる程度のグラウンドが必要である」(12.9%)、「陸上・サッカー・ラグ
ビーなどの公式競技ができる観覧席付のグラウンドが必要である」(12.7%)は、それぞれ1
割台前半となっている。

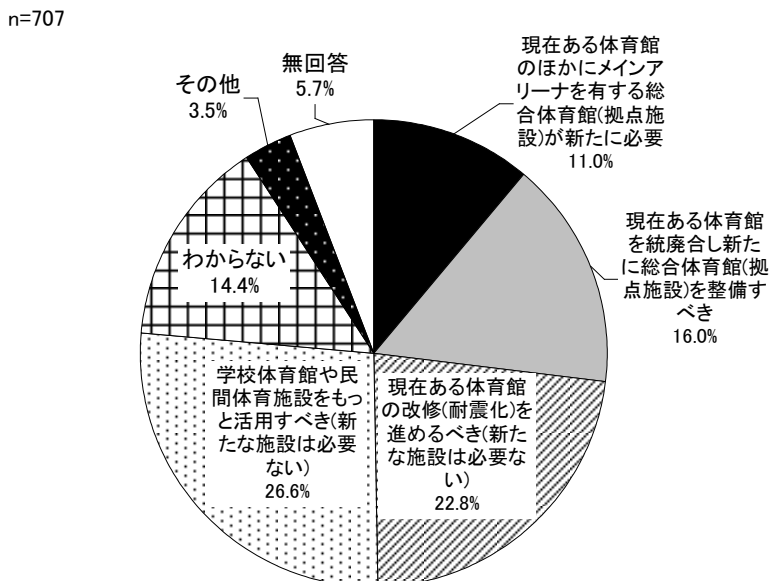
【図 14 グラウンドの整備について】



(5) 体育館の整備について

体育館の整備の考え方については、「学校体育館や民間体育施設をもっと活用すべきである
(新たな施設は必要ない)」(26.6%)が2割半ばで最も高く、次いで「現在ある体育館の改
修(耐震化)を進めるべきである(新たな施設は必要ない)」(22.8%)が2割台前半で続い
ている。以下、「現在ある体育館を統廃合し新たに総合体育館(拠点施設)を整備すべきで
ある」(16.0%)が1割半ば、「現在ある体育館のほかにメインアリーナ(バスケットボールコ
ート3面程度)を有する総合体育館(拠点施設)が新たに必要である」(11.0%)は1割台前
半となっている。

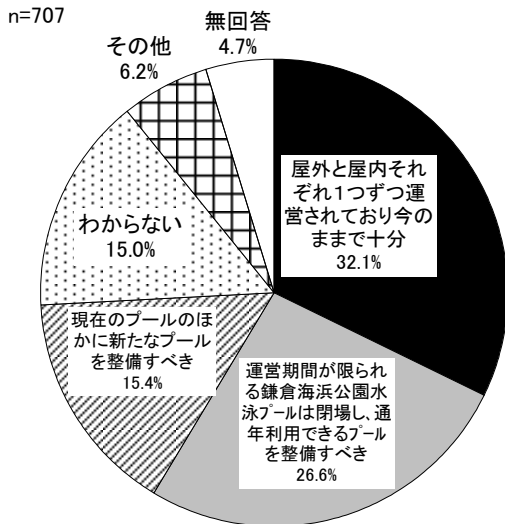
【図 15 体育館の整備について】



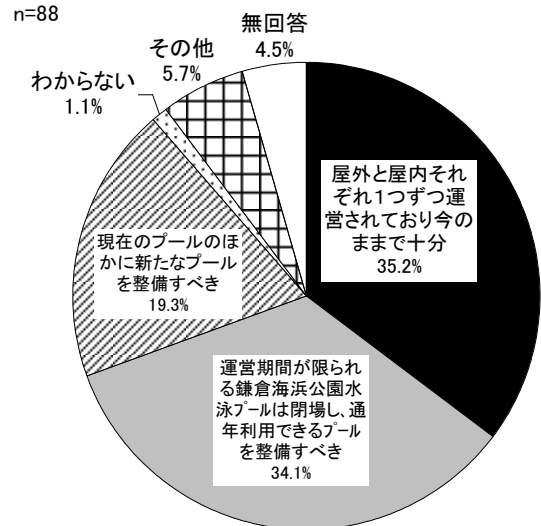
(6) プールの整備について

プールの整備の考え方について、全体では、「屋外と屋内それぞれ1つずつ運営されており今のままで十分である」(32.1%)が3割を超え最も高くなっている。一方、『水泳』をしている人の回答結果では、「屋外と屋内それぞれ1つずつ運営されており今のままで十分である」(35.2%)と「運営期間が限られる鎌倉海浜公園水泳プールは閉場し、通年利用できるプールを整備すべきである」(34.1%)が3割半ばでほぼ同じ割合となっている。

【図 16 プールの整備について】



【図 17 プールの整備について(「水泳」実施者)】

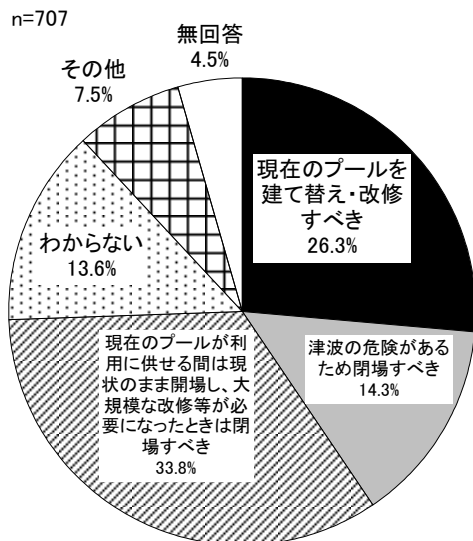


(7) 鎌倉海浜公園水泳プールについて

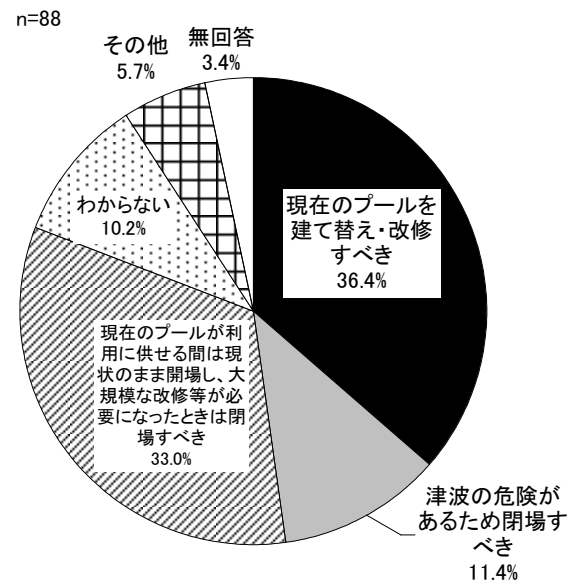
鎌倉海浜公園水泳プールについて、全体では、「現在のプールが利用に供せる間は現状のまま開場し、大規模な改修等が必要になったときは閉場すべきである」(33.8%)が3割を超え最も高くなっている。

一方、『水泳』をしている人の回答結果では、「現在のプールを建て替え・改修すべきである」(36.4%)が「現在のプールが利用に供せる間は現状のまま開場し、大規模な改修等が必要になったときは閉場すべきである」(33.0%)を上回っている。

【図 18 鎌倉海浜公園水泳プールについて】



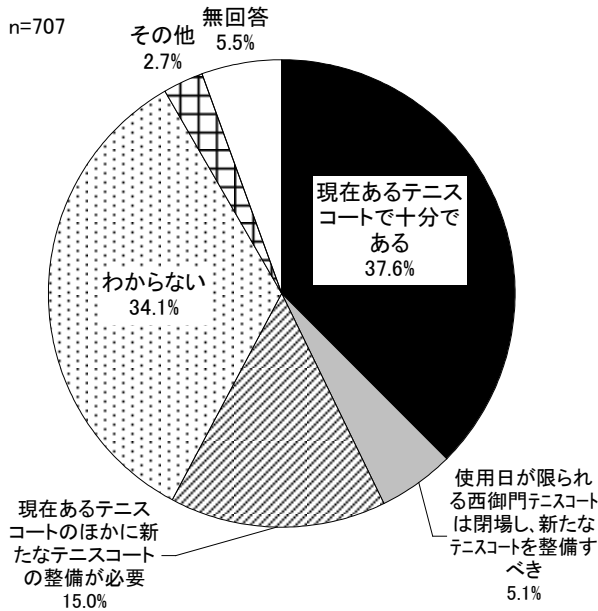
【図 19 鎌倉海浜公園水泳プールについて(「水泳」実施者)】



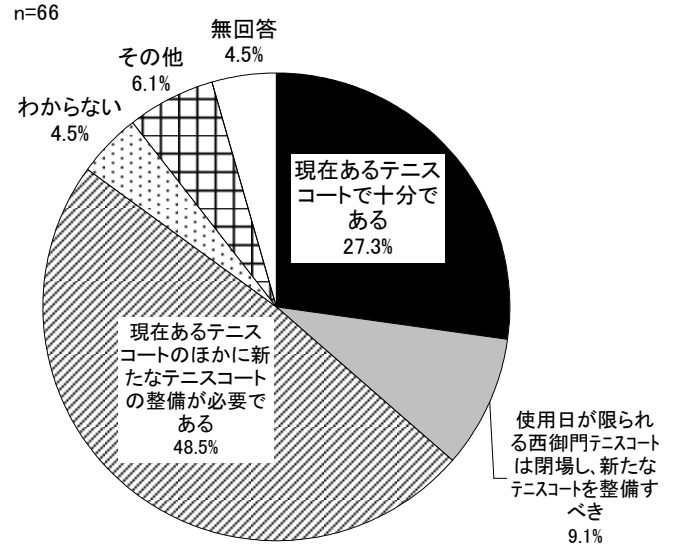
(8) テニスコートの整備について

テニスコートの整備について、全体では、「現在あるテニスコートで十分である」(37.6%)が3割台後半で最も高くなっている。一方、『テニス』をしている人の回答結果をみると、「現在あるテニスコートのほかに新たなテニスコートの整備が必要である」(48.5%)が5割近くと高くなっている。

【図 20 テニスコートの整備について】



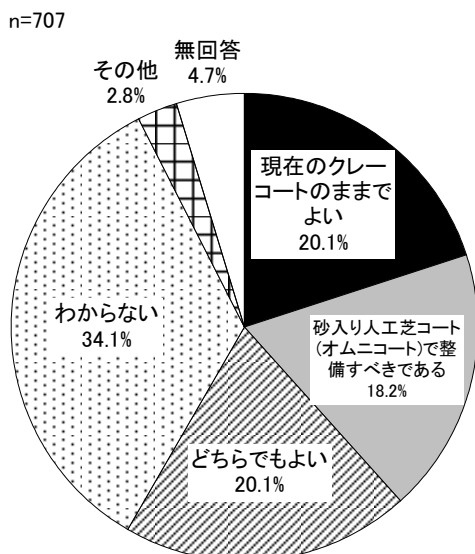
【図 21 テニスコートの整備について(「テニス」実施者)】



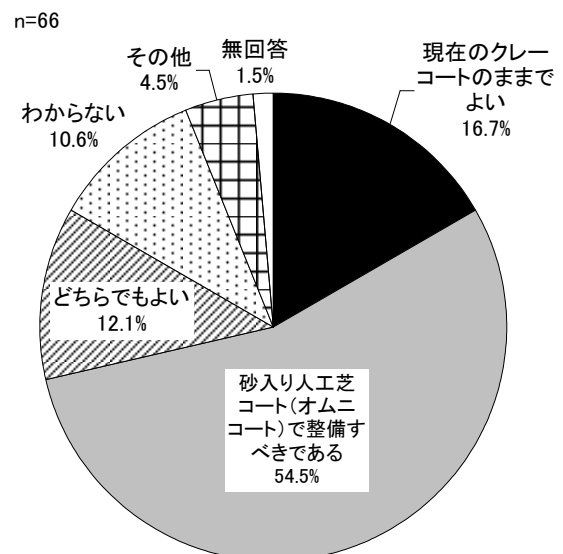
(9) テニスコートの整備の方法

テニスコートの整備の方法について、全体では、「現在のクレーコートのみままでよい」(20.1%)が「砂入り人工芝コート(オムニコート)で整備すべきである」(18.2%)をわずかながら上回っている。一方、『テニス』をしている人の回答結果をみると、「砂入り人工芝コート(オムニコート)で整備すべきである」(54.5%)が5割を超え高くなっている。

【図 22 テニスコートの整備の方法について】



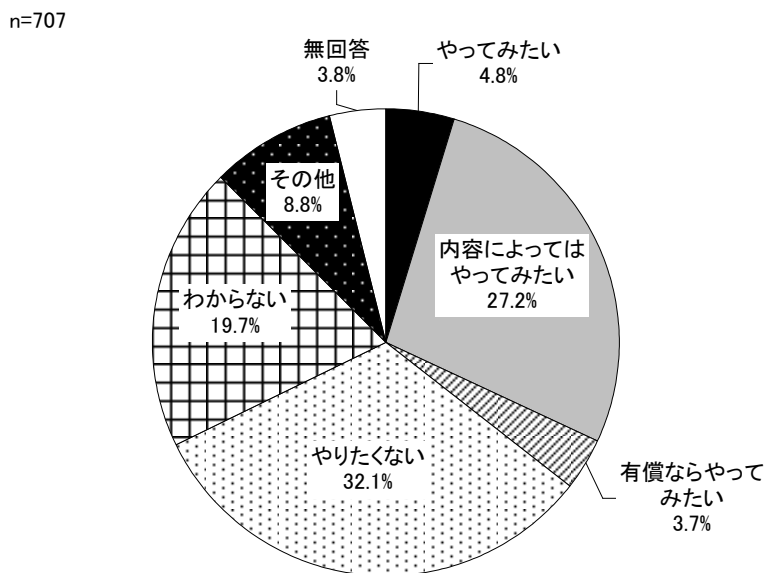
【図 23 テニスコートの整備の方法について(「テニス」実施者)】



(10) スポーツに関するボランティア活動について

スポーツに関するボランティア活動について、「やってみたい」(4.8%)・「内容によってはやってみたい」(27.2%)・「有償ならやってみたい」(3.7%)を合わせた『やってみたい(計)』(35.7%)は3割半ばで、「やりたくない」(32.1%)はほぼ3割となっている。

【図 24 スポーツに関するボランティア活動について】

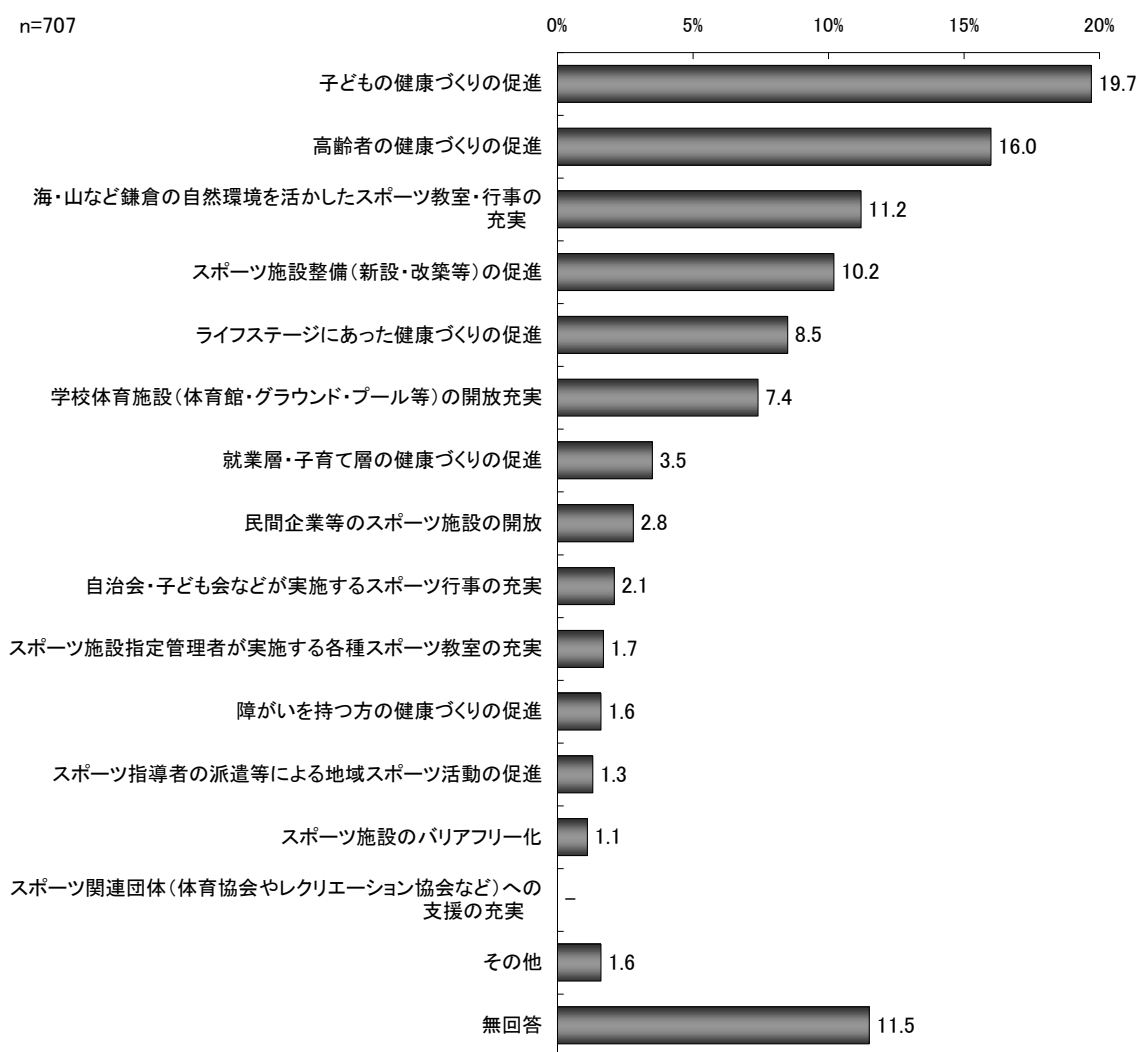


(11) 今後のスポーツ施策の推進について

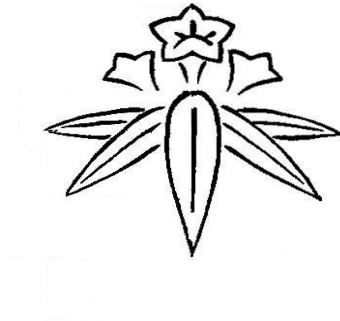
市民のスポーツ活動を推進するために重視すべき施策については、「子どもの健康づくりの促進」(19.7%)が最も高く、次いで「高齢者の健康づくりの促進」(16.0%)となっている。以下、「海・山など鎌倉の自然環境を活かしたスポーツ教室・行事の充実」(11.2%)、「スポーツ施設整備(新設・改築等)の促進」(10.2%)、「ライフステージにあった健康づくりの促進」(8.5%)と続いている。

なお、それぞれの回答理由を聞いたところ、「子どもの健康づくりの促進」は“子どもの健康、成長こそが一番だから”、「高齢者の健康づくりの促進」は“高齢者はなかなか自分から体を動かそうとは思わない。ある程度、まわりからの応援が必要”、「海・山など鎌倉の自然環境を活かしたスポーツ教室・行事の充実」は“鎌倉の恵まれた自然環境をもっと活用すべき”といった記述がみられた。

【図 25 今後、重視すべきスポーツ施策】



* 施策一覧から優先度が高い項目を選択する設問形式において、1位として回答したものの割合。便宜上、棒グラフにて示している。



第3次鎌倉市総合計画

第3期基本計画

前期実施計画

(平成26年度～平成28年度)

古都としての風格を保ちながら、
生きる喜びと新しい魅力を創造するまち

< 抜粋 >

(6) スポーツ・レクリエーション

① 市民スポーツ・レクリエーションの推進

～ 市民のスポーツ実施率の向上を図ります ～

◆ 目標とすべきまちの姿

市民が今まで以上に身近にスポーツ活動に取り組めるようスポーツ環境の整備が進んでいます。

また、より一層のスポーツ行事の実施と奨励により、市民のスポーツに対するニーズやライフステージに応じたスポーツ活動が推進されることにより、市民のスポーツ実施率が向上し、スポーツ活動が充足されています。

◆ 主な取組み

1. 市民スポーツ・レクリエーションの推進

すべての市民が身近なところで、気軽に参加でき、また自ら主体的にスポーツ・レクリエーションが行えるよう、場の提供や指導、情報提供を行います。

2. 自然のなかで行うスポーツ・レクリエーションの推進

鎌倉のもつ豊かな自然（海・森林など）とふれあいながら行うスポーツ・レクリエーションの普及・推進を図るため、野外活動の普及・奨励に努めます。

3. 市民のライフステージに応じたスポーツ環境の整備

幼児から高齢者までを対象とした体力・健康づくり教室や運動・体力相談事業などのイベントや教室を開催し、すべての市民が自ら生涯スポーツが継続できるよう、気軽に楽しめる環境の整備を行います。

4. 競技スポーツの活性化

鎌倉ゆかりのトップアスリートとの交流会や教室を開催し、幼少期から競技スポーツのきっかけづくりを支援します。

◆この施策の方針内で実施する事業（実施事業）

事業名	所管課	事業内容
保健体育運営事業	スポーツ課	スポーツ活動団体への指導・助言の充実や関係団体との連携強化を図るとともに、市民のスポーツ・レクリエーション活動の支援を図るため、スポーツ振興基本計画の進行管理を行います。
各種スポーツ行事事業	スポーツ課	市民が自主的で気軽にスポーツを楽しむことができるよう、地域に根ざしたスポーツの普及・促進を図るため、市民を対象とした各種スポーツ教室・イベント等の開催やスポーツ指導者の育成などを行います。
学校体育施設開放事業	スポーツ課	市民が身近なところで気軽にスポーツ活動が行えるよう、地域の学校体育施設（体育館・校庭・プール）を開放します。
体育施設管理運営事業	スポーツ課	市民の自主的なスポーツ・レクリエーション活動の場の提供や、指定管理者制度等によるスポーツ施設の適正な管理、スポーツ施設予約システムの運用及びPFI事業により整備したこもれび山崎温水プールのサービスの提供を図ります。

(6) スポーツ・レクリエーション

② スポーツ施設の整備

～ スポーツ施設の整備を進めます ～

◆目標とすべきまちの姿

市民ニーズの高いスポーツ施設が整備され、民間のノウハウも生かした幅広い施設運営により、市民のスポーツ活動が充足されています。

◆ 主な取組み

1. 競技スポーツのための施設の整備

競技スポーツの推進を図るため、公式競技の開催が可能な施設の整備の実現に努めます。また、整備にあたっては、P F I 等民間活力の導入や、施設の複合化等について検討します。

2. 既存のスポーツ施設の機能の充実

既存のスポーツ施設をより利用しやすくするため、鎌倉市公共施設再編計画基本方針を踏まえ、施設の改修や設備の導入又は更新を検討します。

3. 市民スポーツのための施設の整備

民間施設の借用・県や他市町との広域利用も含め、市民が気軽にスポーツを楽しめる環境を整備します。

◆この施策の方針内で実施する事業（実施事業）

事業名	所管課	事業内容
<重点事業> 体育施設整備事業	スポーツ課	スポーツ施設建設基金の運用を行います。 深沢地域国鉄跡地周辺におけるグラウンド整備をはじめ、総合体育館等のスポーツ施設整備に向けた検討等を進めます。

◆重点事業

事業CD	4-6-2-1	事業名	体育施設整備事業	
所管課	スポーツ課			
関連課	深沢地域整備課			
事業目標	多様なニーズに対応できる体育施設整備を進めます。			
事業内容	スポーツ施設建設基金の運用を行います。 深沢地域国鉄跡地周辺におけるグラウンド整備をはじめ、総合体育館等の スポーツ施設整備に向けた検討等を進めます。			
事業工程	平成26年度	平成27年度	平成28年度	推計事業費
	グラウンド整備 計画の検討 総合体育館整備 用地の位置づけ	グラウンド整備 事業の位置づけ 総合体育館整備 計画の策定	総合体育館整備 基本設計書の作 成	62.6百万円

鎌倉市スポーツ推進審議会委員名簿

任期 平成24年6月1日～平成26年5月31日

氏名	職業又は役職	選出区分
あまの 天野 ひろや 宏哉	鎌倉市立七里ガ浜小学校校長	行政機関
えびはら 海老原 おさむ 修	横浜国立大学教育人間科学部教授	学識経験者
おおいし 大石 すすむ 進	神奈川県立体育センター事業部長	行政機関
おおひら 大平 あつし 敦	鎌倉市立玉縄中学校校長	行政機関
おがわ 小川 さちよ 幸代	鎌倉女子大学短期大学部 初等教育学科専任講師	学識経験者
こうだ 河田 てるお 輝雄	鎌倉市スポーツ推進委員連絡協議会会長	学識経験者
とみた 富田 ひでお 英雄	鎌倉市地区スポーツ振興会協議会会長	学識経験者
ひぐち 樋口 はるえ 春恵	鎌倉市生涯スポーツリーダー (鎌倉水泳協会副会長)	学識経験者
やまぐち 山口 うちゅう 宇宙	鎌倉市体育協会会長	学識経験者
わかき 若木 かずみ 一美	鎌倉市レクリエーション協会会長	学識経験者